

学校運営委員会だより

第7号 事務局（通算159号）

寒さが厳しいです。子どもたちはそんな中でも持久走大会に向けて日々練習を重ね、カードを記入しながら目標に近付いていることを励みに頑張っています。

学校運営委員会も今回を入れて、今年度あと2回となりました。学校関係者評価の結果や教育課程などについて話し合いが持たれました。

令和7年度 学校運営委員・事務局の紹介（敬称略）

委員長 細越 淳二（国土舘大学 教授）	佐藤 芳秋（学校支援コーディネーター）
戸崎 啓一（元PTA会長）	片山 裕治（学校関係者評価委員長）
廣川 哲（地域関係者）	吉田 太一（オヤジの会会長）
佐々木 潤（元オヤジの会会長）	中村 千里（PTA会長）
佐藤 弘典（本校 校長）	
〈事務局〉寺西 智恵（副校長） 金井 雅弘（主幹教諭） 小関 智子（主幹教諭）	

【学校運営委員会報告】

1 学校関係者評価委員長

今年度は大きな改革がありました。一つはアンケート項目を見直したことです。もう一つは自己評価を入れたことが今年の特徴です。基本方針①への考察としては、評価委員の方にデータ同士を対応して評価していただくようにしました。保護者はどう考えているか・教員はどのように考えているか、という2つを見比べられるようにしました。「あとがき」では、区の教育委員会からアンケートについて大きな変更が示され、次年度は評価形式が大きく変わり、評価委員会が解散することなどを示しました。

児童の評価項目9番目「自分の考えを伝えている」では、児童と保護者で数値に開きがある。大人が思っている以上に子どもたちは自分たちのことを客観的にみていると思われれます。

保護者の評価項目「教員に相談しやすい」について、否定的な数値が20%だった。学校の担任が忙しいので聞きにくかった、ということがあられるかもしれません。

また、評価項目「児童の思っていることを聞いてくれる」が89%で、否定的な意見は15人いた。上記の親と同じように思っているかもしれない、という思いで記述しました。

アンケートの回答数が少なかった。地域の意見をもっと掘り下げていかないといけない。

「自由記述を入れてほしい」という校長の意見があった。そこから見えるのは、自分で考え企画して行動するという校長の思いが届いている様子がわかります。

2 質疑応答

委員D：雰囲気浸透させるのは難しいことだが、子どもたちから主体的な言葉が出てきているのはよかった。否定的な意見が20%だということだが、企業的にみて、すごく良い数字だと感じています。

校長：肯定的でない意見を見逃してはいけないと感じているが、「相談しにくい」という意見は一定数あるものだと思います。

委員G：児童の「自分の考えを伝えようとしている」と教員の「自分の考えを出す授業を展開している」について、ギャップがあるかもしれません。

校長：「自分の考えを出す授業を展開している」ということについて、やらなければならないという教員の思いは強くなってきている。どういう場面でそれができているのか評価することについて研究途中です。

3 校長あいさつ

来年度の教育課程は教育委員会に受理されています。

(この後、AIを使って城山小学校の教育課程について提示した。)

委員E：内容がわかりやすかったです。説明が付け加えられていました。

校長：こういうアプローチ(AI)もある。基本的な方針は変わりません。みなさんとともに子どもたちと育てていきたいと思います。

委員C：3年生のSDGsの発表会を見ました。楽しく見させていただきました。

委員G：評価委員会など、次年度どうなるか具体的な姿について教えてください。

校長：区のほうから説明が変わりました。まだ決まっていないことが多いです。

委員B：学校の方針についてやりつづける、言い続けることが大切だと思います。

3 次回開催日程

3月10日(火) 18:00~